

地域展「平鹿—水とくらし—」の概要と来館者の反応

益子 清孝

はじめに

当館では昭和56年度以降、調査研究活動の一つに「来館者の展示に対する反応調査」を実施してきた。本報告は、調査研究委員会が掲げた昭和58年度の「来館者の展示に対する反応調査」の中から、地域展「平鹿—水とくらし—」（昭和58年1月4日～6月26日開催）の調査結果について報告するものである。

調査対象は、昭和58年5月16日から6月26日までの来館者を任意に選んだ707人（本館来館者の7.9%）である。調査対象人員は表1のとおりである。調査方法は、アンケート方式及び聞き取り調査による。調査項目・聞き取り調査カードは右掲のとおりである。

なお、調査方法・調査項目などについては、調査研究委員会・展示企画担当・平鹿研究統括担当の合議によって設定した。また、平鹿研究の経過については、『秋田県立博物館研究報告第8号』に述べたとおりである。

I 地域展「平鹿—水とくらし—」の展示概要

1. 展示のねらい

展示シナリオ案（第二次案、昭和57年6月3日提示、益子案）に展示のねらいが示されている。そのシナリオ案は次のとおりである。

地域展「平鹿—水とくらし—」シナリオ案（Ⅱ）

| 設 定 | 内 容 ・ 要 点 |
|-----|---|
| | 平鹿の大地は豊かであるといわれている。かつては全県一の人口密度（明治18年には3443人/万里）を示し、それだけに人口支持力が大きかったと考えられている。平鹿の米づくりは全県的にも、その土地生産性も高く、穀倉地帯として知られている。このような平鹿の大地は、はたして、それだけ |

調 査 カ ー ド

アンケートにご協力ください

このアンケートは地域展「平鹿—水とくらし—」に対しての皆様のご意見をいただき、よりよい展示をするために役だてたいと思いますのでご協力ください。

| |
|--|
| 居住地 (県内 町・県外) |
| 性別 (男・女) 年 齢 (才) |
| ○この展示でもっとも興味・関心をもったコーナーはどこでしたか。つぎの1～6から選び番号に○印をしてください。 |
| 1、平鹿の水（竜骨車などの揚水機などのコーナー） |
| 2、恵みの泉—清水（清水信仰・酒・染色・紙すき） |
| 3、川のおいたち（河床のうつりかわりと泥炭） |
| 4、雄物の流れ（雄物川の舟運と文物の往来） |
| 5、平鹿の祈り（平鹿の神像や仏像） |
| 6、平鹿あちらこちら（民俗行事・民具・道しるべ） |
| ○この展示で平鹿の人びとと「水」とのかかわりについて感じたことを下から選び番号に○印をしてください。また、その展示資料名を（ ）に記入してください。 |
| 1、めずらしいものをみることができた。（ ） |
| 2、なつかしく身近に感じた。（ ） |
| 3、昔の人びとの知恵に感心した。（ ） |
| 4、水を効果的に利用している。（ ） |
| 5、水にまつわるくらしの変化を知ることができた。（ ） |
| 6、水を利用する道具・ならわしが自分の住む地域のものところがうことを知った。（ ） |
| 7、水によせた心～信仰心～を知ることができた。（ ） |
| 8、清水がいかに重要であったかわかった。（ ） |
| 9、疑問に思っていたことがわかった。（ ） |
| 1/Q そのほか（ ） |

表1 調 査 人 員

| 居住地 | 区 分 | | 合計 | 備考 | |
|-----|---------|------|-----|------|--------|
| | 児童・生徒 | 一般 | | | |
| 県 内 | 平 鹿 地 域 | 242人 | 38人 | 280人 | 高齢者24人 |
| | 平鹿地域以外 | 270 | 86 | 356 | |
| | 計 | 512 | 124 | 636 | |
| 県 外 | | 21 | 50 | 71 | |
| 合 計 | | 533 | 174 | 707 | |

の条件を備えた環境であっただろうか。必ずしも恵まれた自然環境とはいえなかったのではないだろうか。

人は「水」なくしては生きてはいけない。自明の理である。平鹿の人びともまた生命の源である「水」を求めて奔走したのではないだろうか。平鹿の水は潤っていたのだろうか。水にまつわる生活はどのようなものであっただろうか。

殺倉地帯・平鹿の人びとは自然の営みに順応もした。だが、生活の舞台となった平鹿の自然の営みは、人びとの暮らしを規制し、制約もしてきた。しかし、より豊かな暮らしを求め、巧みに自然に働きかけては可能性を求めて創造的に行動した。英知を結集しては、いろいろな〈道具〉(社会的環境)を創造し、自然の克服に努めた。そして、自然は決して人間活動を規制するだけではなく、可能性の場であることも知った。

〈環境可能論の立場〉

水管理は近代化した。水にまつわる地位層はどうなったのだろう。残象(旧象)もみられる。そして、新象(初象)もある。生活層は変質し、消滅もするが、水は現実のものである。〈地位層概念の導入〉

そうだ、連綿として平鹿の大地は存在し、人びとは生活している。変らないものは何だろうか。変ることのない普遍的な平鹿が存在するのではないだろうか。

〈普遍的平鹿の追求〉

水にまつわる平鹿の人びとの姿を近世から近代に視点をすえ、展示という方法を通じて地域的広がりの中に敷衍し、平鹿の地域性を普及しようとする。展示をとおしてみた平鹿は、はたしてどう私たちに語りかけるであろうか。

〈平鹿の地域性〉

大 要 ◇平鹿の人びとが織りなす水にまつわる諸象は語るか。

展示のポイント 平鹿の大地では連綿として多くの人びとの営みがある。平鹿の人びとにとって、そ

のくらしの舞台(自然環境)は、時には脅威となり、くらし向きをも規制した。しかし、その恵みにも浴したところも大きい。

〈生活の舞台としての自然〉

増田町・平鹿町・十文字町・雄物川町・大雄村、

平鹿の人びとは、きびしい自然に順応しつつも、ひたむきなまでに挑んできた。ことに、生命の源・「水」にまつろ生活層に平鹿の人びとの創造的な道具(社会環境)とその開発史をかいまみることができる。それは敬虔なものであったのではないだろうか。

〈水の利用とその顕象・残象〉

水の恵みにも浴した。しかし、苦難の道程でもあった。今は近代的な水管理の時代となった。新しい時代の波(生活様式)とともに地位層は輪廻する。けれど、平鹿なるが故に普遍なるものがあるのではないか。

〈平鹿の心〉

基本理念 地域事象は複雑多様である。地域事象をとらえるときに、環境(決定)論におちいってはならない。可能論的視点にたって、総合的にとらえることが肝要であろう。

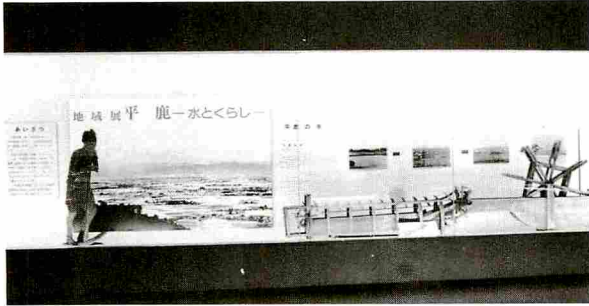
〈地誌・総合化の視点〉

地域の性格は、時の経過によって変化する。時代的には握られる地域は、新旧多様な時代層が重合して性格づけられる。居住・生産活動・文化的遺産ほか(人文的な地域構成要素)を含む新旧の生活層を吟味してみると、その層は上下に重なり、それがあたかもデルタの海中における累次堆積層にみられる現象と類似している。生活層の傾きと、新層の初象や顕象と旧層の残象とは各地域の地域性と、その変化を認知する尺度とすることができよう。多くの適宜な指標による地域性究明のプロセスを複集成し、地域的な広がりの中に敷衍し、総合化することによって地誌の展開ができよう。

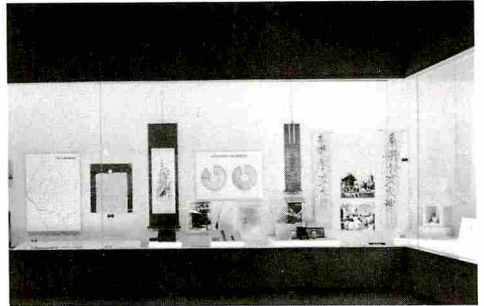
〈地位層概念による総合化〉

地域展「平鹿—水とくらし—」の概要と来館者の反応

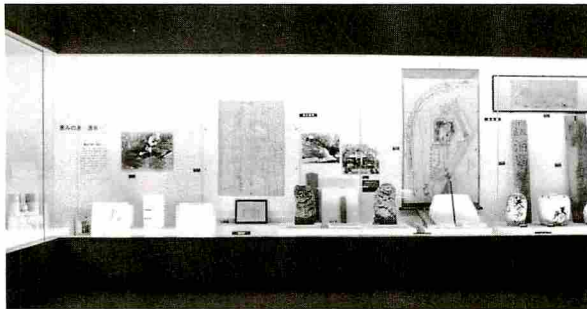
| | | |
|--|--|--|
| <p>地域の人びとのくらし，ことに「水」を展示という手法によって表現することは難しい。しかし，難解な，理論めいたものは展示しないで，水の用途・利用の観点にもとづいて資料を系統だてたり，再編成した上でみてわかる《わかりやすい》展示とする。ことに，「水」を表現する展示は，これまでにないテーマであり，技術を要する。中学生にもわかりやすく理解できる展示であることが肝要であろう。カラフルなイメージ表現と立体的パネリングもし，表現技術を工夫する。補助手段として視聴覚機器を用いる。</p> <p>〈展示方法とその留意点〉</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・川船 構造，諸道具，引舟，船頭と船子，川船で運ばれた文物～木綿機業・商人地主・内陸水路などとの関連及び石造遺物(移入経路)，消えた川船 ・雄物川の氾濫原の利用と居住地， ・雄物川の漁撈 ヤナ，ウケ， ・川と信仰 船壺，絵馬 | |
| <p>展示概要</p> | <p>(要点のみ，内容文省略)</p> | <p>新しい平鹿 D. 消えゆくものと新しいもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土地利用の高度化 ・水管理の近代化 ・新しいエネルギー開発 ・新しいコミュニティ |
| <p>平鹿の自然</p> | <p>A. くらしの舞台</p> <ul style="list-style-type: none"> ・導入 平鹿の景観，位置・方位，平鹿の四季 ・自然環境 地形と水，河川とその作用～雄物川 ・皆瀬川・成瀬川，氾濫原，扇状地湧泉， ・泥炭～根子～とその利用， 分布・景観・層序・組成，用途，泥炭地の農業， ・平鹿の水収支～夏乾燥型 | <p>平鹿の心 E. 平鹿の心～その普遍的なもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ものづくりと民俗行事 ・文化財 |
| <p>清水とその利用</p> | <p>B. めぐみの水・清水(しず)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清水の自然 分布，清水の景観，清水と地形，水質，清水の構造，湧水性の生物 ・清水の利用 生活用水と居住地 農業用水・水利慣行(小勝田川) 工業用水～醸造業・染色業(正藍染)紙渡き ・清水とその信仰 水神，雨乞い，清水祭 | <p>上記のシナリオ案をもとに，平鹿研究(共同研究)の成果をふまえて具体的展示について検討がくわえられた。第二次シナリオ案の段階では中タイトルとして</p> <ul style="list-style-type: none"> A. くらしの舞台(平鹿の自然) B. めぐみの水・清水(清水とその利用) C. 母なる川・雄物(雄物川) D. 消えゆくものと新しいもの(新しい平鹿) E. 平鹿の心～その普遍的なもの(平鹿の心) <p>となっていたが，館内討議の結果，第三次シナリオ案</p> |
| <p>雄物川</p> | <p>C. 母なる川・雄物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河港 分布，景観，構造・施設～浜蔵， | <p>図1 平鹿展平面図(第3展示室)</p>  <p> A: 平鹿の水 D: 雄物の流れ B: 恵みの泉・清水 E: 平鹿の祈り C: 川のおいたち F: 平鹿あちらこちら </p> |



平鹿の水（導入部）



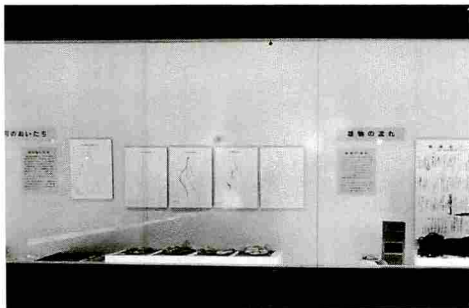
平鹿の水（水の利用と信仰）



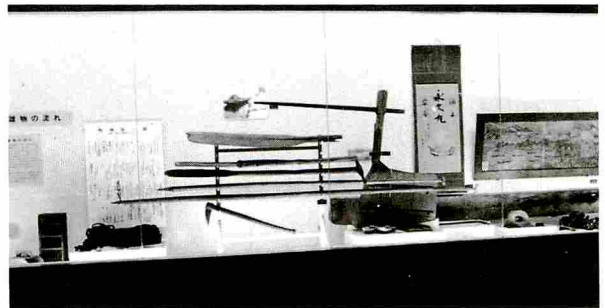
恵みの泉—清水—（湧水性動物と清水信仰）



恵みの泉—清水—（清水の利用）

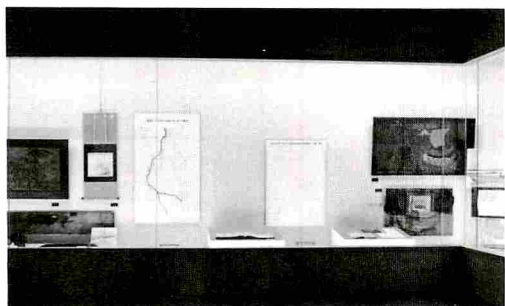


川のおいたち（河床の変遷と泥炭）



雄物の流れ（雄物川の舟運）

地域展「平鹿一水とくらしー」の概要と来館者の反応



雄物の流れ（舟運と信仰）



平鹿の祈り（神像と仏像）



平鹿あちらこちら（狸々の道しるべ）



平鹿あちらこちら（スゲ笠、ミノ・ケラ、鹿嶋様）



平鹿あちらこちら（根子、ポップ）

写真 地域展「平鹿一水とくらしー」 展示状況(II)

が提示され（昭和57年9月16日）、次のように修正された。

- A. 平鹿の水
- B. 恵みの泉—清水—
- C. 川のおいたち
- D. 雄物の流れ
- E. 平鹿の祈り
- F. 平鹿あちらこちら

2. おもな展示資料

第三次シナリオ案の中タイトルにより、展示資料が再編成された。中タイトル別の展示資料は次のとおりである。なお、展示構成は図1及び写真1に示してある。

○タイトル

地域展「平鹿—水とくらし—」

○テーマ

A 平鹿の水

| 壁面 | 資料 |
|------------------------|----------------------|
| ・平鹿の里と鳥海遠望(写真) | ○木彫「農夫」 |
| ・平鹿の四季(写真) | ○龍骨車・踏車 |
| ○水—今とむかし | |
| ①平鹿の主要幹線水路 | |
| ②十五野新堰絵図(正徳3年)(写) | ○小勝田川番水文書(江戸期～明治期) |
| | ○十五野新堰覚書(明和4年)(写) |
| | ○拾五野閼御人足遣申覚(正徳3年)(写) |
| ○雨乞い | |
| ①赤滝神社(東成瀬村・写真) | ○赤滝神社神符版木 |
| ②赤滝姫之像(軸装) | |
| ③赤滝神社雨乞い祈願墨書(写真) | ○赤滝姫之像版木 |
| ④雨乞い祈願(イラスト) | ○雨乞い祈禱札(昭和4年) |
| ○水とその信仰 | |
| ①昭和38年以前の水源別灌漑面積(円グラフ) | |
| —皆瀬川水系・成瀬川水系 | |

②水神

- ・琵琶沼・十二泉—水神(軸装)
- 幟—水波大神
- 神事(写真)
- ・平鹿町荒所の清水祭—五穀菩薩(写真)

- 神棚
- 神鏡
- 弁天様
- 燭台
- 徳利
- 水神祠,

B 恵みの泉—清水—

○清水と信仰

①戸波の清水(写真)

- トミヨ・イバラトミヨ,
- トゲウオ(トミヨ)の分布図,トゲウオの里—平鹿—(イラスト)

②中吉田の清水

- ・中吉田村郷絵図(文政5年)
- ・白藤神社(写真)

- 白藤清水景勝状—秋南八景—(昭和5年)
- 奉納龍塔(明治24年)
- 奉納龍絵馬

・観音清水・観音清水堂(写真)

- 観音清水堂棟札(文久3年)

③沖田・清水神社(写真)

- 清水神社棟札(嘉永3年再建)

④浅舞・八幡神社の清水八幡神社全景(佐野江洋筆)

- 久利迦羅不動之剣(宝暦5年)

⑤清水の分布図

○清水の利用

①酒造業

・琵琶沼絵図(蓑虫山人筆)

- 天の戸—酒類醸造看板・吟醸酒貯蔵用器・5升徳利

- ・醍醐酒造(写真)
- ・酒造看板—嵐山・春霞・養老・高砂,

- 朝及舞—酒造看板・吟醸酒貯蔵用器・徳利

- 館の井—杉玉・かぶと・酒舟・朱樽

- 花の街—東川—吟醸酒貯蔵用器,

- 勇駒—酒造看板

地域展「平鹿—水とくらし—」の概要と来館者の反応

| | | | |
|---|--|---|---|
| <p>②藍染</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浅舞絞り (写真) ・正藍染 (写真) <p>③紙漉き</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製作工程 (写真) | <ul style="list-style-type: none"> ○浅舞絞り(江戸期・明治期) ○製作工程—生白・精練・図案・型彫・下絵・くくり台(柳絞り・お七絞り)・耳縫い・染色・酸化・糸解き・仕上げ ○藍草・藍花・緋粉・藍用液・藍玉・染料インド藍板締め用具・藍瓶 ○染屋レットル・染屋鑑札(嘉永4年)・商標版木 ○和紙米袋・白和紙・名刺封筒・角封筒・書翰箋・色紙・障子紙・いろ紙、短冊・装飾和紙・凧和紙 | <p>年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○川と信仰 | <ul style="list-style-type: none"> ○船絵馬 |
| <p>C. 川のおいたち</p> | | <p>E. 平鹿の祈り</p> | |
| <ul style="list-style-type: none"> ○横手盆地南部の泥炭地などの分布図 ①泥炭の形成以前 ②泥炭の形成直前 ③泥炭の形成中 ④現在 | <ul style="list-style-type: none"> ○泥炭地のボーリングコア ○成瀬川の礫 ○皆瀬川と雄物川にだけみられる礫 ○雄物川にだけみられる礫 | <ul style="list-style-type: none"> ○平鹿の神像 <ul style="list-style-type: none"> ・横手市旭岡山神社山門参道 (写真) ○平鹿の仏像 <ul style="list-style-type: none"> ・雄物川町宮田神社 ・阿弥陀如来(イラスト) ・造山神社 (写真) | <ul style="list-style-type: none"> ○神像(秋田県有形文化財)(2軀) ○十二神将 (5軀) ○阿弥陀如来 ○毘沙門天(雄物川町東泉寺藏) ○地藏菩薩 (同上) ○不動明王(雄物川町山内家藏) |
| <p>D. 雄物の流れ</p> | | <p>F. 平鹿あちらこちら</p> | |
| <ul style="list-style-type: none"> ○河港と川船 <ul style="list-style-type: none"> ・船頭名一覧 ・川港 (写真) ・永久丸掛軸 ・船引 (写真) ・角間川船場絵図 ・船引の図(三森山静筆) ○雄物川の河港と物資の動き—河港・浜蔵の分布及び物資(主に米)の動き ・雄物川町塩田家の物資積上・積下表(弘化4 | <ul style="list-style-type: none"> ○川船諸道具—舟タンス・水かき・滑車・カジ・棹あゆみ・引縄 ○川船大工道具—ノコギリ・ユンゴ・ハヤスケ ○馬つなぎ石 ○ツマゴワラジ・ハバキ ○穀保町米蔵焼失記録文書(文政9年) ○塩田家物資積上積下文書(弘化4年) | <ul style="list-style-type: none"> ○平鹿の道しるべ <ul style="list-style-type: none"> ・平鹿概要図 ・道標(石造) (写真) ○平鹿のリンゴ <ul style="list-style-type: none"> ・平鹿のリンゴ園(写真) ・リンゴ園—清香園(基愛筆扁額) ・リンゴ園賛歌(尊福・義亮筆扁額) ○平鹿町荒処・沼入り梵天 (写真) ○大雄村・ホッフ(写真) ○根子—泥炭 (写真) ○雄物川町深井・鹿嶋様 (写真) ○戸波のミノ・ケラ(写真) | <ul style="list-style-type: none"> ○猩々像・猩々の徳利・猩々の縁起(版木)・猩々の道しるべ(エンドレス録音テープによる解説) ○伊藤謙吉関係資料—緑白綬有功章・農芸図書・弔文・短冊(石川理紀之助筆) ○藤原利三郎関係資料—果物代金支拂帳・礼状(秋田県知事・明治41年)・藤原利三郎肖像写真 ○沼入り梵天 ○ホッフ ○根子・埋木・きじたて・根子ペラ・根子車、埋火(イラスト) ○鹿嶋様・流し鹿嶋と流し船 ○祝ケラ・ミノ・ミノボッチ・ミンカケ・ケラ作り台 |

| | |
|--------------|-------------------------|
| ○仁井田のスゲ笠(写真) | マンダ皮・ボッチあみ台 |
| | ○大野笠・つの笠・三度笠 朝顔笠・スゲ笠 |
| | ○スゲ素材・骨輪・笠縫い (製作工程) |

II 「平鹿展—水とくらし」

に対する来館者の反応

1. 展示タイトル別関心度

調査対象707人のうち最も関心度の高い展示項目は「平鹿の水」で26.6%であった。次いで「平鹿あちらこちら」(25.9%)、「恵みの泉—清水—」(23.8%)、「平鹿の祈り」(21.2%)、「雄物の流れ」(19.7%)、「川のおいたち」(18.7%)の順となっている(複数回答があり、それによって百分率を算出している)。地域別興味、関心度は図2に示したとおりである。

平鹿地域以外の県内居住者の場合、「平鹿あちらこちら」(25.3%)、「恵みの泉—清水—」(24.7%)、「平鹿の水」(23.9%)、「川のおいたち」(ともに23.9%)、「雄物の流れ」(19.7%)、「平鹿の祈り」(18.3%)の順となっている。順位の間違はあるものの、その比率の差は小さい。県外からの来館者の場合は、「恵みの泉—清水—」(28.6%)、「平鹿あちらこちら」(26.8%)、「平鹿の水」(23.9%)に対する関心が高く相対的に「雄物の流れ」(9.9%)に対する関心が低位であった。県内の小・中・高校生の場合、「川のおいたち」(27.0%)、「平鹿あちらこちら」(27.0%)及び「平鹿の水」(23.7%)の順となっており、「川のおいたち」に対する関心が相対的に高い。県外の小・中・高校生の場合も同様であったが、「雄物の流れ」に対する関心は、県内の小・中・高校生に比して極めて低位であった。県内の一般来館者の場合、「恵みの泉—清水—」に対する関心が極めて高く、43.0%の高率を示した。県外の一般来館者は、「恵みの泉—清水—」(31.1%)、「平鹿の水」(28.9%)、「平鹿あちらこちら」(26.7%)に対する関心が強かった。

平鹿地域に居住している来館者の場合、雄物川町のN小学校(5年生)の例をみると「平鹿あちらこちら」(31.7%)、「雄物の流れ」(26.7%)の関心が強く、大雄村のA小学校(5年生)では、「雄物の流れ」(54

.3%)、「平鹿の水」(22.9%)、「平鹿の祈り」(20.0%)に対する関心を強く示している。雄物川町は雄物川の舟運や地元の伝統行事(鹿嶋行事など)などの展示資料もあり、大雄村は雄物川との関連が濃厚な地域でもあり、多くの関心を示したものと考えられる。平鹿町のY中学校(1—2年生)の場合、「平鹿の水」(51.2%)、「平鹿あちらこちら」(35.4%)、「平鹿の祈り」(30.5%)、「恵みの泉—清水—」(25.6%)に対する関心が強い。平鹿町は琵琶沼十二泉をはじめ、多くの清水の恵みに浴した地域でもある。また、当該校の学区内にも多くの清水が分布し、その依存度も極めて高く、郷土の水利用に欠くことのできないものであった。さらに、「平鹿あちらこちら」のコーナーには平鹿リンゴ・沼入り梵天、根子(泥炭)など身近な地域の展示資料もあり、必然的に関心度が高かったものと考えられる。また、「平鹿の祈り」(30.5%)に対する関心も強かったことは注目される。一方、横手市のM中学校(1年生)の場合、「平鹿の水」(44.7%)、「恵みの泉—清水—」(39.5%)に対する関心度が極めて高かった。中学生の場合、地理的視野も広まり、さらに、思想的観展も可能となっており、水の重要性、ことに清水の重要性を身近な地域と比較して平鹿の水にまつわるくらしについて、展示のねらいにダイレクトに反応したものと考えられる。また、M中学校の場合、「平鹿の祈り」(29.0%)に対する関心度も高い。それは、平鹿町のY中学校と同様である。「平鹿の祈り」には横手市旭岡山神社の神像(2軀)、十二神像(5軀)が展示され、初の公開であったこともあるが、中学生の段階でかなり美術史的にも、思想的に観展する姿勢が確立されている結果とも考えられる。

平鹿の一般来館者の場合、「恵みの泉—清水—」(36.9%)、「川のおいたち」(29.0%)、「平鹿の祈り」(26.3%)への関心度が高い。高齢者(65才以上)の場合も同様である。特に「川のおいたち」に対して多くの関心を示している。ことに高齢者は50.0%の強い関心度を示している。平鹿の水、ことに清水の重要性を体験的にも、その役割を認知しているであろうし、その清水のメカニズムを科学的に考察し、観展した結果であろう。それは、日常、疑問をいただいていたことでもあり、今回の展示がその疑問を解決してくれた機

地域展「平鹿一水とくらし」の概要と来館者の反応

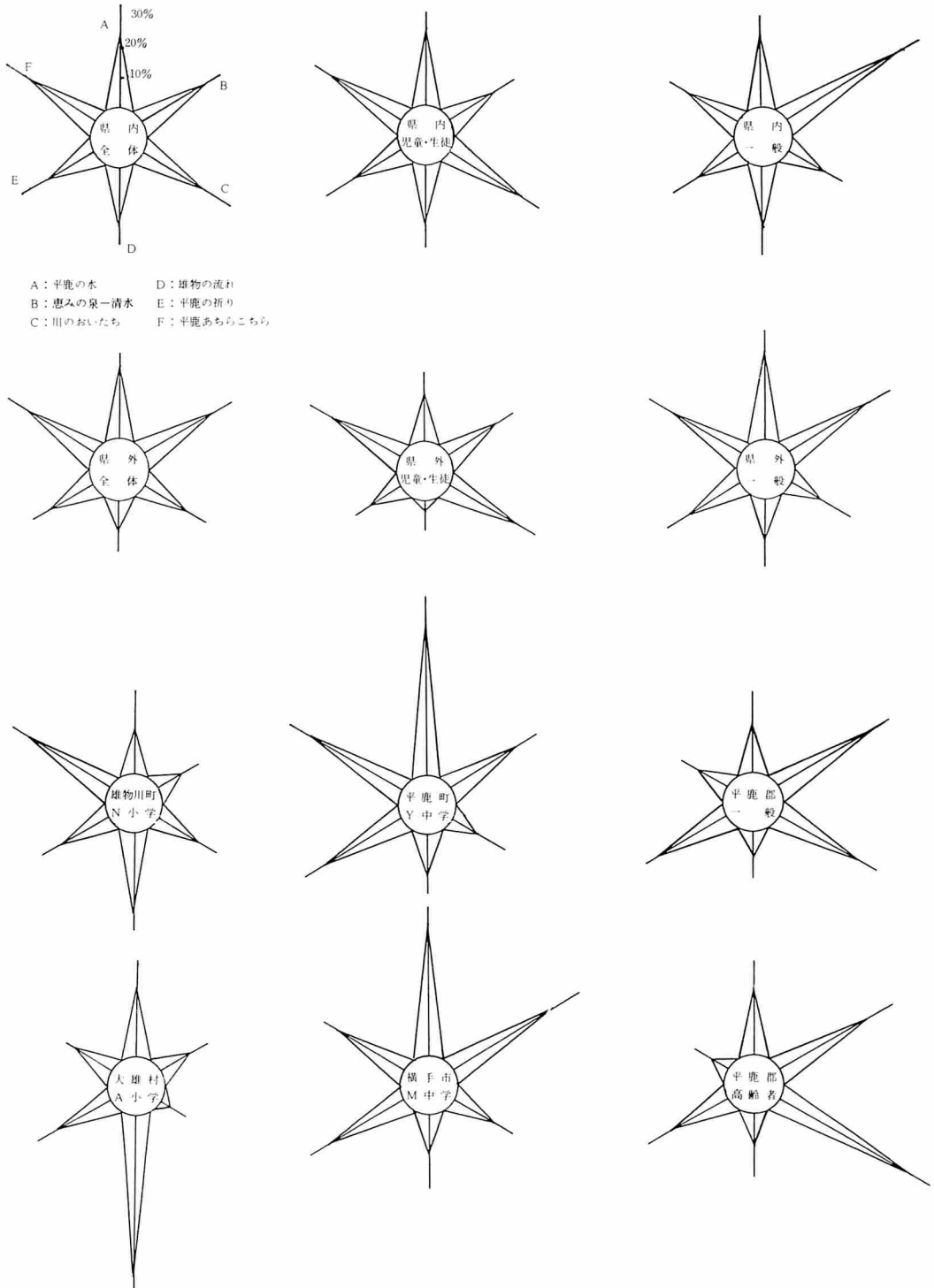


図2 展示タイトル別関心度

会であったことが来館者をして高い関心度を示したものと考えられる。

次に、展示タイトル別にその関心度を特化係数（表2）により整理してみた。

「平鹿の水」では、地元中学生の関心度が特に高かった。さらに、県外来館者一般層の関心が強かった。

「恵みの泉－清水－」では、県内一般、横手市M中学校、平鹿地域一般、県外一般の関心度が高い。概して平鹿の水資源の中で清水の役割がいかに重要であったか、その展示のねらいが来館者に浸透したものと考えられる。現在、平鹿の清水は埋没したものも少なくない。また、近代的な水管理によって、清水は間欠的なものも多くなり、その重要性も低下している。それだけに、平鹿の人びと（一般）は体験的にも清水の恵みに浴したであろうし、その重要性を認知しているが故に高い関心度を示したものと考えられる。地元の小学生の関心度の低いのは、体験的にも必然的と考えられる。しかし、平鹿地域以外の来館者の関心が清水によせられていることからすれば、平鹿にとって、いかに清水が重要であったかが認識されたものと考えられる。

「川のおいたち」では、県内・県外の児童生徒、平鹿地域の一般に高い関心度を示した。児童・生徒が思想的に自然の営みを考察し、地元の一般来館者は、清水との関係及び日常疑問に考えていた皆瀬川・成瀬川・

雄物川の流路の変遷について考察した結果であろう。それだけに、地元の人びとにとって、疑問点、関心をもっていた事柄について解決を与えた展示であった。

「雄物の流れ」では、県内の来館者及び地元小学生が強い関心を示した。雄物川の舟運は現在見られない。それだけに、秋田県の河川交通の大動脈であった雄物川に対しての関心があったと考えられる。そのことは地元小学生にとっても同様であろう。

「平鹿の祈り」では、地元の中学生以上から高齢者にいたるまで強い関心が示された。

「平鹿あちらこちら」では、県外来館者、地元中学生、県内の児童・生徒の関心が強い。しかし、平鹿地域の一般来館者の場合、相対的に低位であった。このことは年代、地域によって関心度に相違があったことを示している。県内の児童・生徒は「川のおいたち」に、県内一般は「恵みの泉－清水－」、地元小学生は「雄物の流れ」、地元中学生は「平鹿の水」、恵みの泉－清水－、平鹿の祈り、平鹿あちらこちら、地元一般、高齢者は「恵みの泉－清水－」「川のおいたち」「平鹿の祈り」に関心度が傾斜している。一方、県外の来館者の児童、生徒は「川のおいたち」「平鹿あちらこちら」、一般は「平鹿の水」「恵みの泉－清水－」への関心度が高かった。

表2 展示タイトル別関心度～特化係数～

| 地 域 | | タイトル | | A | B | C | D | E | F |
|---------|-----------|-------|---------------|------|------|------|------|------|------|
| 秋 内 | 児 童 ・ 生 徒 | | | 1.21 | 1.08 | 1.96 | 1.35 | 1.21 | 1.41 |
| | 一 般 | | | 1.25 | 2.46 | 1.02 | 1.37 | 1.05 | 1.04 |
| 平 鹿 地 域 | 児 童 | 小 学 校 | N小学校の場合(雄物川町) | 0.77 | 0.47 | 1.09 | 1.84 | 1.17 | 1.66 |
| | | | A小学校の場合(大雄村) | 1.17 | 0.65 | 0.21 | 3.75 | 1.28 | 0.75 |
| | 生 徒 | 中 学 校 | Y中学校の場合(平鹿町) | 2.61 | 1.46 | 0.71 | 1.01 | 1.96 | 1.85 |
| | | | M中学校の場合(横手市) | 2.28 | 2.26 | 1.15 | 0.91 | 1.86 | 1.38 |
| | 一 般 | | | 0.96 | 2.10 | 2.10 | 0.55 | 1.69 | 0.55 |
| 高 齢 者 | | | 1.13 | 1.90 | 3.62 | 0.77 | 1.42 | 0.29 | |
| 県 | 全 体 | | | 1.22 | 1.63 | 1.23 | 0.68 | 1.07 | 1.40 |
| 外 | 児 童 ・ 生 徒 | | | 0.78 | 1.10 | 1.95 | 0.24 | 0.74 | 1.41 |
| | 一 般 | | | 1.48 | 1.78 | 0.80 | 0.93 | 1.28 | 1.40 |

A：平鹿の水

B：恵みの泉－清水－

C：川のおいたち

D：雄物の流れ

E：平鹿の祈り

F：平鹿あちらこちら

$$\text{※特化係数} = \frac{n_i / n}{N_i / N}$$

N_i：iタイトルに関心を示した人員

N：調査対象総人員

n_i：各地域のiタイトルに関心を示した人員

n：各地域の調査対象人員

2. 「水」にまつわる展示に対する反応

平鹿の人びとと「水」とのかかわりについて、展示資料をもとに、その反応について考察してみる。

「めずらしさ」を指摘した来館者が最も多く45.1%となっている。次いで、「先人の知恵」(25.5%)、「清水の重要性」(15.4%)、「水と信仰心」(13.6%)、「水にまつわるくらしとその変化」(13.2%)、「なつかしき・身近さ」(13.0%)、「水の道具・習慣の地域差」(12.3%)、「効果的水利用」(10.3%)、「疑問点の解決」(8.5%)の順となっている。それらの関心を示した展示資料名は表3に示したとおりである。

清水の重要性・効果的水利用、そして、水利用に対する先人の知恵をあわせると、その過半数の51.2%となっている。さらに、水にまつわる生活層の変容、水の道具や水にまつわる習慣の地域差など、思想的に考察し、観展している来館者も多い。ことに、疑問点を解決した来館者が少なくないことも注目される。ほと

んど来館者に展示のねらいが理解されたと考えてよからう。しかし、年代、居住地によって、それぞれ反応の度合も異なっている(図3)。

県内居住者(平鹿地域居住者を除く)では、「めずらしさ」、「先人の知恵」を指摘している比率が高い。しかし、県外からの来館者では、必然的に「めずらしさ」(41.0%)を指摘する比率も高いが、「清水の重要性」を指摘した比率が相対的に高率であった。小・中・高校生にとっては、この展示が近世から近代に視点をすえた関係上、極めて「めずらしさ」を指摘する傾向が顕著である。県内居住一般の場合、「先人の知恵」(36.1%)、「清水の重要性」(25.6%)、「水の信仰」(22.1%)などが高率であることから、平鹿の人びとが、平鹿の大地を可能性の場として、清水の利用にあたっては創造的に働きかけてきた姿を理解していただいたものと考えられる。平鹿の水環境がいかにかびしかったか、それ故に、いかに清水が重要であったか、またそれが敬虔な祈りをもこめたものであったこ

表3 「水」とのかかわりに対する関心とその展示資料

| 項目 | 資料 | 展 示 資 料 名 (指摘した資料の多い順) |
|--------------|----|---|
| めずらしさ | | 龍骨車・踏車・根子(泥炭)・赤滝神社関係資料(雨乞い)・正藍染・仏像・神像・鹿嶋様 狸々の道しるべ・ノコギリ・川船道具・浅舞紋りとその製作工程・湧水性動物(トゲウオ) 中吉田絵図・紙漉き・琵琶沼絵図・角間川船場絵図・ポーリングコア・ミノ・ケラ・馬つなぎ石・天の戸関係資料・龍神 |
| なつかしき・身近さ | | 龍骨車・踏車・酒造関係資料・鹿嶋様・白藤神社関係資料・ミノ・ケラ・紙漉き・藍がめ・浅舞紋り・穀保町焼失控(文書)・龍神・狸々の道しるべ |
| 先人の知恵 | | 龍骨車・踏車・紙漉き・川舟カジ・根子(泥炭)・水の利用のしかた・酒造関係資料・清水の利用 |
| 水の効果的水利用 | | 龍骨車・踏車・藍染・紙漉き・酒造・番水・戸波の清水 |
| 水にまつわるくらしの変化 | | 龍骨車・踏車・清水信仰・水の道具・全体を通して |
| 道具・ならわしの地域差 | | 龍骨車・踏車・鹿嶋様・水神・狸々の道しるべ |
| 水によせた心—信仰心— | | 水神・龍神・赤滝神社と雨乞い・神像・仏像・久利蓮羅不動観・鹿嶋様・八幡神社絵図 |
| 清水の重要性 | | お清水様・水神様・番水・戸波の清水・飲料水 |
| 疑問点の解決 | | 河川の変遷・清水の利用・清水信仰・紙漉き・根子 |
| そのほか | | ・狸々の道しるべに強い関心をもった・人形送り(鹿嶋)行事に関心をもった・川のおいたち一河床の変遷は大変参考になった・清水の重要性とその保護の必要性を感じた・トゲウオについて再認識をした・根子を再認識した・酒屋道具など時代の移り変りを感じる。 ・昔の人は今の人たちとは違った考え方をした事を知った・室町時代、江戸時代の彫刻に感心した・大森町がでなくて残念であった・説明が不十分ではなかったか・平鹿の位置をはっきり示してほしかった。 |

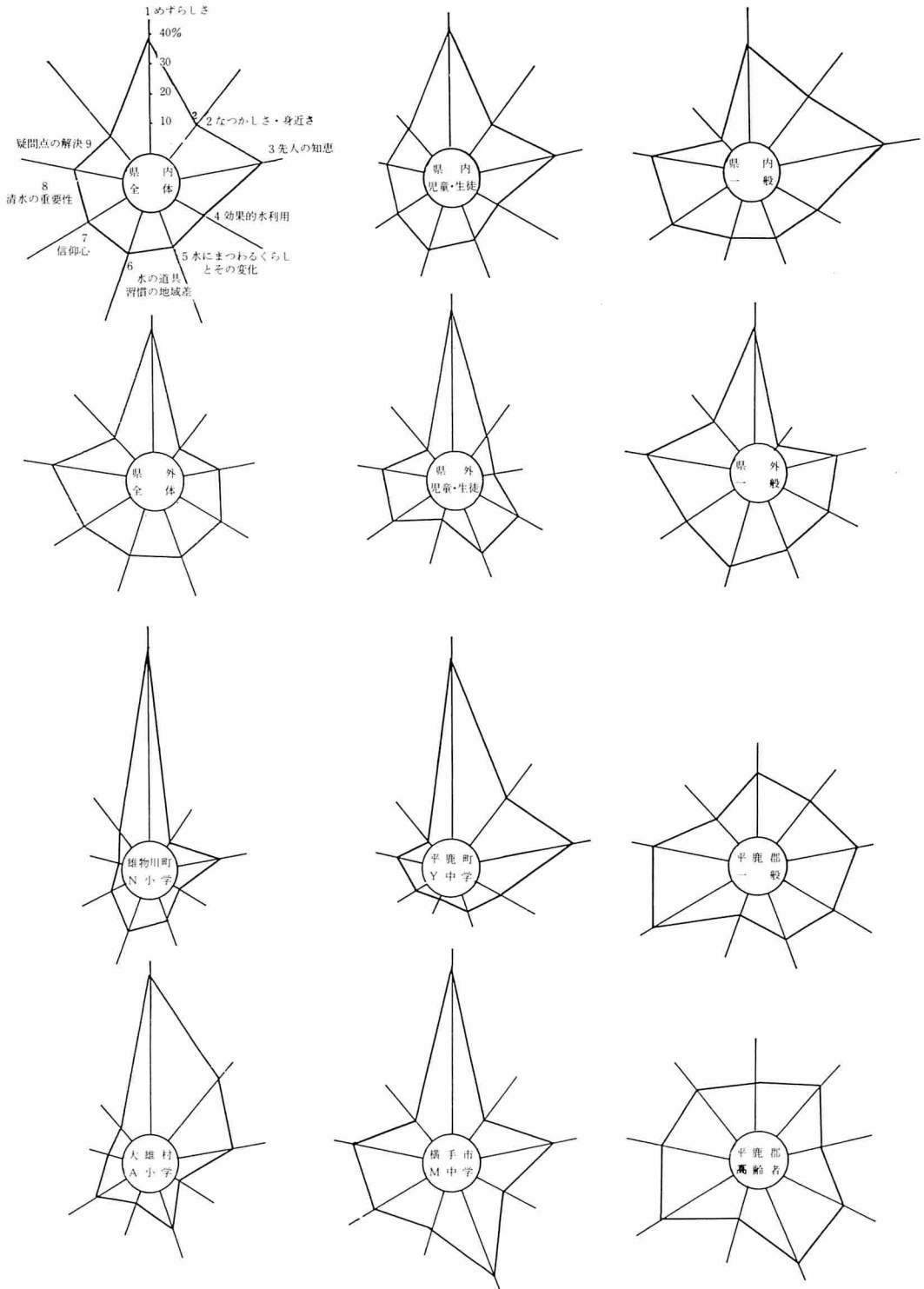


図3 「水」にまつわる展示に対する反応

地域展「平鹿一水とくらし」の概要と来館者の反応

となど、展示のねらいが浸透していたものと考えられる。県外からの一般来館者の場合も同様であるが、
 ①水の道具、習慣の地域差、(22.2%) ②効果的水利用、③水にまつわるくらしとその変化、(ともに17.8%) など、極めて能動的、思想的に観展していたことが注目される。

一方、平鹿地域に居住する地元の来館者の場合、雄物川町のN小学校・大雄村のA小学校では、過半数以上の児童が①めずらしさ、をあげていた。その比率はN小学校の場合は66.0%を占めていた。しかし、N小学校の場合には④先人の知恵、(15.0%)、A小学校の場合には⑤なつかしき・身近さ、(25.7%)、⑥先人の知恵、(20.0%)、③水にまつわるくらしとその変化、(14.3%)にも関心を示している。中学生の場合、平鹿町のY中学校・横手市のM中学校ともに①めずらしさ、を指摘する比率は高いものの、小学生と比較してみると⑥先人の知恵、⑦清水の重要性、③水にまつわるくらしとその変化、に対する関心の度合いが高くなっている。地元一般の場合、③水と信仰心、(31.6%)、⑦清水の重要性、(26.3%)、⑥先人の知恵、(23.7%)、②効果的水利用、(21.1%)などに強い関心を示している。この傾向は、地元高齢者に特に顕著である。ことに、③水にまつわるくらしとその変化、③水と信仰心、(ともに27.8%)及び⑦清水の重

要性、(23.3%)の比率が高く、清水とその信仰、そして、その生活層の変容に極めて強い関心を示した。また、②疑問点の解決、を指摘した比率が22.2%を占めたことは注目される。地域展「平鹿一水とくらし」のねらいが極めてダイレクトに浸透したものと考えられる。

次に、上述の傾向を特化係数(表4)をもとに整理してみた。

①めずらしさ、は低年齢層・県外からの来館者に高率であった。本展の設定からしても当然な結果でもある。⑤なつかしき・身近さ、は必然的に地元の各層に及ぶことも又同様である。⑥先人の知恵、に関しては、平鹿地域以外の児童・生徒・一般来館者に相対的に多かった。②効果的水利用、③水にまつわるくらしとその変化、は、概して児童・生徒よりは一般来館者に顕著な観展傾向がみられた。しかし、地元の児童・生徒の中にも、その傾向は看過できない。③水の道具・習慣の地域差、に関心を示したのは、必然的に地元以外からの来館者である。③水と信仰心、は年齢層が高くなるほど関心の度合いは高いが、県外からの来館者にも多くの関心があった。⑦清水の重要性、に関しては、県内外の一般及び地元の一般来館に反応度が高く、清水の重要性が再認識されたものと考えられる。②疑問点の解決、を指摘した階層として、地元一般・高齢者及び

表4 水にまつわる展示に対する反応度～特化係数～

| 地 域 | | 項 目 | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | |
|-------------|------------------|------------|---------|---------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 秋 田 県 | 県 内 | 児 童 ・ 生 徒 | | 1.41 | 1.57 | 1.67 | 1.29 | 1.37 | 1.98 | 1.37 | 1.40 | 2.52 | |
| | | 一 般 | | 1.13 | 2.66 | 2.23 | 2.47 | 1.52 | 1.62 | 2.54 | 2.61 | 0.87 | |
| | 平 鹿 地 域 | 児 童 生 徒 | 小学校 | N小学校の場合 | 2.29 | 0.21 | 0.93 | 0.50 | 0.99 | 1.48 | 0.58 | 0.17 | 0.93 |
| | | | A小学校の場合 | 1.89 | 3.10 | 1.24 | 0.44 | 1.70 | 0.72 | 1.31 | 1.46 | 1.06 | |
| | | 中学校 | Y中学校の場合 | 2.12 | 1.76 | 2.03 | 1.49 | 0.73 | 0.15 | 0.56 | 0.87 | 0.22 | |
| | | M中学校の場合 | 1.92 | 0.95 | 1.62 | 1.59 | 3.76 | 1.67 | 2.43 | 2.42 | 1.46 | | |
| | 一 般 | | 一 般 | 0.73 | 2.22 | 1.46 | 3.20 | 1.88 | 1.00 | 3.63 | 2.86 | 1.94 | |
| | | 高 齢 者 | 0.58 | 2.68 | 0.69 | 3.52 | 3.31 | 1.41 | 3.20 | 2.38 | 4.11 | | |
| 県 外 | 全 体 | | 1.42 | 0.51 | 0.78 | 2.56 | 2.01 | 1.96 | 2.10 | 2.44 | 1.83 | | |
| | 児 童 ・ 生 徒 | | 1.60 | 0.93 | 0.22 | 2.33 | 1.83 | 0.44 | 1.77 | 1.57 | 0.65 | | |
| | 一 般 | | 1.31 | 0.27 | 1.10 | 2.70 | 2.12 | 2.81 | 2.33 | 2.95 | 2.46 | | |

- 1：めずらしさ 2：なつかしき・身近さ 3：先人の知恵
 4：効果的水利用 5：水にまつわるくらしとその変化
 6：水の道具・習慣の地域差 7：信仰心 8：清水の重要性
 9：疑問点の解決

$$\text{※特化係数} = \frac{n_i / n}{N_i / N}$$

N_i：i項目に視点をおいた総人員
 N：調査対象総人員
 n_i：各地域のi項目に視点をおいた人員
 n：各地域の調査対象人員

県内の児童・生徒、県外一般来館者に多い。日常疑問に考えていた事項について、いろいろな面で本展が解決を与える機会であったことは否定できない。

県内の児童・生徒は水の道具や習慣の地域差・先人の知恵などに関心を示し、かつ疑問点を解決する思考的な観展傾向もあった。県内一般来館者の場合、水に関しての展示資料を身近にうけとめ、平鹿の人びとが清水をいかに効果的に利用したか、また、平鹿の人びとが用いた水の道具や習慣の相違に強い関心を示している。さらに、その創造的な先人の知恵、そして水によせた信仰心に強い関心を示した。

地元の児童・生徒にとっては、¹めずらしい、郷土の展示であった。そして、²先人の知恵、に触れる機会でもあった。中学生にとっては、身近な地域における水にまつわる生活層の変化やその信仰心にいたるまで関心をよせていた。地元一般人は、清水の重要性・その効果的利用及び信仰心を再認識し、水にまつわる生活層の変化を肌で認識したものと考えられる。ことに高齢者にいたっては、その傾向が顕著であり、かつ、水に関しての種々日常抱いていた疑問を解決することができた人が相対的に多かった。こうした観展傾向は県外からの来館者にも顕著であり、本展のねらいは、ほぼ達成されたものと考えられる。しかし、反省点も少なくはない。

3. 平鹿地域居住者の展示に対する意見・感想

平鹿地域に居住している来館者の中から、任意に本展に対する意見・感想を次の3点について述べていただいた。その概要は次のとおりである。

a. 展示構成について

- ・全体的によく整理されていた（平鹿町，男，53才）
- ・「水とくらし」の展開・順序がよい。ただ、このテーマとあまり関係のないもの、展示品もあるようだ。（同，男，48才）
- ・龍骨車など、もっとほかに何かがあれば良いと思った（同，女，45才）
- ・平鹿の水～雄物の流れは大変よかった。平鹿の祈り平鹿あちらこちらはつけたしみたいに思われ、まとまりがなく、雑然としていて展示のむづかしさを学びました。

（同，男，53才）

- ・神像、仏像等、信仰の対象物をよく折衝されてご展示いただいたことを感謝いたします。（同，男，53才）
 - ・妥当で見易かった。（増田町，男，69才）
 - ・よかった。（同，男，64才）
 - ・担当職員の並々ならぬ御努力に心から敬意と感謝を申し上げます。（同，男，70才）
 - ・平鹿の里、鳥海を望むパネルとタイトルによって目的がはっきり示され、テーマに従って展示され大変よかった。（同，男，62才）
 - ・展示物が少なすぎた。タイトルからするイメージとはかなり違ったし、拡大解釈しすぎるくらいがあった。但し、短時間のうちには、よく集めたものであることは認める。（同，男，70才）
- #### b. 展示手法について
- ・わかり易くて申し分がないと思った。（平鹿町，男，53才）
 - ・若い人々も見学するのでもっと説明をくわしくすると良いと思った。（同，女，45才）
 - ・狭い展示室を工夫していましたが、いわゆるぐっとくるものがなかった。（同，男，60才）
 - ・近代建築に古い木像や泥炭、埋木（もろくて）等の散らかる物を、御勇断をもって出陳されたことを敬服しております。（同，男，53才）
 - ・「川のおいたち」を動く装置にしたらもっと理解が深まると思います。（増田町，男，69才）
 - ・素人ですのでわかりませんが、よくこんなに立派で上手に配列するものだと感心しました。（同，男，70才）
 - ・理解を深めるために、たくさんの手法がとられていてよかった。（同，男，62才）
- #### c. 全体的にみた感想・意見（再認識したことなど）
- ・河川の変遷によって伏流水の移り変り、湧水の移り変りの状況を展示品によって再認識した。平鹿展の現地における「博物館教室」は非常に有意義でありました。（平鹿町，男，69才）
 - ・平鹿の古いもの、めずらしいものの展示コーナーももうけたらどうだっただろうか。（珍品コーナーとか）。（同，男，48才）
 - ・会場全部を通じて良く展示されていると思った。県

南方面から博物館が遠いのであまり行く機会がないのが残念である。(同、男、58才)

- ・何もかもめずらしく、昔の人たちの生活を知ることができて遠い存在であった博物館が身近に感じ、もっともっと見学し学びたいと思っています。(同、女、52才)
- ・小さい一つの現象より、それぞれの持つ「心」を掘り下げ、掘りおこしの成果はすばらしいと思いました。諸先生方に深く敬意を表します。なおできることであれば、これら平鹿のもつ心を基にして諸先生方の深いお考えで、このような平鹿が将来どうあるべきかの方向づけなりを何かの方法で展示があればと思いました。(同、男、54才)
- ・仏像は関係がなかった。宗派の広がりや伝わり方を説明するのであれば、別の方法があったと思うし、テーマに合わない感じ。立派な仏像に眼を向けたがるものだが、由緒もいわれもない仏像であれば印象も半減する。寺社の歴史(平鹿の場合)をもっと深めた上で資料が集められたらよかったと思います。(同、男、60才)
- ・展示会場が少し狭いと思った。(同、男、60才)
- ・博物館からはるかに遠い地域のことを詳細に調査なさっておられることに目をみはりました。(同、男、53才)
- ・水が私の生活にとって、いかに大事であるかがよく理解され、横手盆地が稲作中心になっている理由がはっきりしました。(増田町、男、69才)
- ・関係市町村だけでも移動展示会をやって戴き、昔の状態を皆んなに知ってもらいたいと思います。地味な事だけに本当にこのような状況を管内のだれにでも理解できるように広報展示会が必要と感じました。(同、男、70才)
- ・自分で推理していたことが事実によって証明され(河床の移り変り)よかった。(同、男、62才)
- ・河床の移り変りは、本展の圧巻であろうし、この事象をもっと大きく深くとりあげることが出来なかったかと感じられた。(同、男、70才)
- ・日常の生活において「水」の重要性を再認識した。(同、男、72才)

※感想文

『平鹿展を見学して』(平鹿町、男、53才)

「平鹿のことを秋田までも出かけて見学するという事に少々変な感じがしないでもなかったが、小寒いなかを集合出発した。会場である展示場は分り易く分類され係の人達の工夫、苦勞の跡が見られた。私達の側につきっきりで、時々愚問を發する私にも懇切丁寧に説明してくださって大変ありがたかった。自分の住んでいる土地の事に関して知らない事がこんなにあったのかと思ひ知らされ、大変参考になり意義ある一日であった。

特に平鹿盆地が成瀬、皆瀬、雄物川により形成された土地であり、その河川のなりたちや舟運の道具・農業用の諸道具、その風土がもたらした庶民の信仰の多彩さにあらためて郷土を見直した次第である。前々から私は自分達の土地が砂利あり、粘土あり、ネッコ谷地あり、清水わく所ありで、特に砂利は川が運んだものと思われる事で、昔、雄物川がこの平鹿の盆地を自由奔放に荒れ流れていたのではないかと想像していた事が実証されたような気がして大変満足し、納得した。

また、幼い頃、家の側のセキコにもいった。ハリザッコが氷河期の生き残りであり、清流の中でなければ住まず、学術上からも貴重な存在であり、大事にしなければ絶滅するかも知れないと知り驚いた。

昭和の初期、当時のセキコは私達子供の遊び場であり、その水は飲用にもされセキコは家々の流し場としても使用された。セキコに小便をするとガモが曲ると大人達にいわれ、本気にしていた。その頃、セキコ端と草むらにはナベッコの群がとびかい、小さな青いビッキがいかにも涼しそうに葉の上に止っていた。水面にはその名のごとくめまぐるしく動き回るメグリコ、氷上をスケーターのように流れ下っては飛びもどるウマッコ、小石を除くとあわてたゴリが逃げだした。あれこれ集めて造った筒状の家にはクダ虫がおり小ガニもいた。スナメグリが水底の砂だまりでひとかたまりになってうずをまいていたし、ウラップなどもたくさんいた。水草のある場所を網ですくいあげると小鯉、タナゴ、名も知らぬ昆虫類・横エビ・ハリザッコもその中にいた。ビチビチはね回るハリザッコの刺の感触が今も手のひらに残っている。

むんむんする草、田圃のセキコから網とバケツをもって走り回った事を思い出しながら、あのハリザッコ

がなあと平気でたべたのが可哀想な気がした。

今のセキコはどうであろうか。農薬が始めて使用された時、田一面に死んでいたドジョウの群をただた薬の効果のみにたまげていたものだが。以来、生活廃水や畜産関係の汚水のたれ流して水草の生えるのも許さないほどの汚れようである。自然のサイクルの中で人間が勝手に生物の生息状況を変え、自らもその中でもだえ苦しむ日がくるのではないかと不安を感じるのは私だけか。油くさいドジョウの味にもなれて平気であるようになったら恐ろしい事だ。このような環境汚染に対し行政も上水道だ下水道だと対策に追われているようだが、ここで一度原点をふり返って見るべきだ。もともときれいであったのを人間が汚したのだから、その人間が気をつけて汚さぬようにしたら貴重なハリザッコの快適に住める環境が造りだせるのではないか。その方がずっと安上がりではないかと思うのだが。」

(昭和58年1月30日)

おわりに

展示に対する来館者の反応調査は、館活動における日常業務の理論化のうえでもきわめて重要である。こ

れまで、本館においては、調査研究委員会が先導的に調査方法等について検討し実施してきた。その結果については、調査研究委員会が集計し、学芸職員に報告し、館活動の資としてきた。しかし、その結果についての検討、考察は各学芸職員にゆだねられているのが現状である。昭和59年度からは、何らかの検討機関のもとに、調査結果の有効な活用を目ざしている。したがって、今後は具体的な討議の資料として反応調査が実施されることになろう。

今回の「平鹿一水とくらしー」に対しての来館者の反応調査の結果からして、ほぼ展示のねらいが来館者に浸透したものと考えられる。しかし、反省点も少なくない。本館の地域研究とその展示は、本館がめざす「秋田学(郷土学)」を構築するための有用な手法でもある。今回の反応調査の結果を、特に地元住民の意見を参考に地域研究の推進の方法、地域展の在り方などについての検討の資として生かしていきたいものと考えている。

今回の反応調査にご協力をいただいた来館者、特に地元の方々に深謝申し上げます。なお、掲載写真は本館嶋田忠一氏の協力をいただいた。